

果樹産地構造改革計画の策定・実行により、競争力の強い産地を構築しましょう

果樹農業の現状と課題

果樹農業の特徴

永年性作物 経営転換が容易ではない
多くが中山間傾斜地に立地 作業が重労働
収穫等機械化が困難な作業が多い 労働集約的

果樹経営

60歳以上の経営者が5割超 労働力の不足
一部で規模拡大が進んでいるが、
主業農家の平均規模は1ha弱 規模拡大の遅れ
果樹単一経営が多数を占めるが、
主業農家の農業所得は約4百万円 経営基盤が脆弱

果樹産地 [担い手が不明確、生産基盤が脆弱]

農地流動化の遅れ ↔ 労働力の不足

園地整備の遅れ

傾斜の改良
作業道の整備 他

農家数の減少、栽培面積の減少、生産量の減少

産地の核となる生産者への
園地集積に結びついていない

果樹産地の今後

果樹産地構造改革計画

目標

目指すべき産地の姿の明確化
(例) 量販店との契約、高品質化の追求、直販等

具体的な戦略として

産地の核となる担い手の明確化
担い手以外の農業者の役割の明確化
園地基盤の整備、担い手への園地集積の目標
消費者ニーズを踏まえた販売方法 等

産地協議会

- ・JA
- ・市町村
- ・生産者
- ・普及センター
- ・農業委員会 等

策定

産地自らが策定

計画に基づき実行

産地に必要な取組

生産基盤の構造改革

- ・園地の流動化
- ・園地の基盤整備
- ・労働力調整システムの確立

担い手への集積・育成

需要に見合った果樹生産の推進

- ・優良品目・品種への転換、条件不利園地の廃園推進

構造改革
の推進

競争力の強い産地の実現

